2009年5月1日発行　　1947年10月27日　第３種郵便物認可

KOBE YMCA NEWS

神戸青年
2009.5
No.595
May

発行所　日本ＹＭＣＡ同盟　東京都新宿区本塩町７
ＴＨＥ ＹＭＣＡ神戸版　発行人／水野　雄二　編集人／坂本　庸秀
神戸ＹＭＣＡ　〒650-0001　神戸市中央区加納町2-7-15
ＴＥＬ．078－241－7201　ＦＡＸ．078－241－7479
ＵＲＬ　http://www.kobeymca.or.jp　印刷／わかばやし印刷

KOBE YMCA 125

神戸YMCA年間聖句	わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛しなさい。（ヨハネによる福音書　13：34）

～2008年度国際協力募金感謝～
かけがえのない　いのちと平和

2008年度神戸ＹＭＣＡ国際協力募金が2月末をもって終了いたしました。約590万円の浄財が寄せられました。ご協力くださいました皆さまに、心よりお礼申しあげます。

タイ・チェンマイＹＭＣＡと協働プログラムを実施している村の子どもたち

ＹＭＣＡ国際協力募金は

世界の国と地域にひろがるＹＭＣＡのネットワークを通じて、すべての人びとが国・民族・宗教のちがいを認め合い、平和にいきいきと暮らすことが出来る世界をつくりだすための国際協力・地域奉仕活動に用いられています。

ともに支えあう

14年前の阪神淡路大震災で、私たちの地域は世界中の様々な人びとにより強く支えられ、困難な環境にありながらも大きく温かな力を経験しました。支えられ支えるという互いの関わりが強められるよう、国際協力募金が用いられています。

心の成長を目指す

私たち一人ひとりが互いに関心を持ち、誰もがともに支えあえる関係であるように、ＹＭＣＡでは、人と人との交流から学び合い、互いに理解することで心の成長を目指します。

地域とともに

神戸ＹＭＣＡは、「子どもと若者のいのちが光り輝くように」という願いのもと、それぞれが与えられた地域で平和をつくりだすことができる人を育てる多くの出会いと学びの機会を提供しています。

多くの会員の皆さま、地域の他の関係者の皆さまとともに街頭募金活動や啓発活動にも努めてきました。皆さまのご協力とご理解に重ねて感謝申しあげます。

街頭募金
神戸ＹＭＣＡ学院専門学校の学生たちと

神戸ＹＭＣＡ国際協力募金の流れ

神戸ＹＭＣＡ → 日本ＹＭＣＡ同盟 → アジア・太平洋ＹＭＣＡ同盟 → 世界ＹＭＣＡ同盟
神戸ＹＭＣＡ → 地域の協力団体
アジア・太平洋ＹＭＣＡ同盟 → 世界各地のＹＭＣＡや協力団体
世界ＹＭＣＡ同盟 → 世界各地のＹＭＣＡや協力団体

ユースプラザ KOBE･EAST に 神戸市長来たる！

３月15日（日）に、ユースプラザKOBE･EASTで「Young Creative Festival」が開催され、神戸市内７ヵ所にある「青少年の居場所施設」から約500名が集いました。ユースプラザKOBE･EASTは開設からまだ１年ですが、高校生ボランテイアが「ストラックアウト」を出店、バンド、ダンスに計３組が出演するなど、企画から運営までを中高生が中心に担いました。初対面のダンスグループが急遽コラボレーションするなど、新しい出会いがいくつも見られました。矢田立郎神戸市長が特別ゲストとして駆けつけてくださった「中高生のしゃべり場with神戸市長」では、各施設代表の中高生が居場所や夢について語り、市長から若者に向けてメッセージをいただきました。

中高生のしゃべり場with神戸市長

2009年５月１日

総会構成員各位　　神戸キリスト教青年会

2009年　定期総会　公示

本会会則第23条により、下記の通り総会を開催します。

記

日　　時：2009年５月29日（金）18：30～
場　　所：神戸ＹＭＣＡチャペル
議　　事：1. 2008年度事業報告の件
　　2. 2009年度方針及び事業計画の件
報告表彰：1. ボランティア奨励賞
　　2. ユースボランティア紹介

尚、総会構成員以外の会員の方にも、ＹＭＣＡの現状をご理解いただく機会として、ご列席いただければ幸いです。

以　上

省察

３月16日・17日、社会福祉法人光朔会オリンピアの新入職員トレーニング合宿を実施した。本年も総勢16名の新入職員が、深夜まで福祉について熱い議論を繰り広げた◆近年、高齢者福祉を取り巻く環境は非常に厳しい。安い賃金や過酷な労働が敬遠され、働く人たちの「福祉離れ」が進んでいる、というニュースが、連日テレビや新聞を賑わしている◆たしかに、介護の仕事は楽ではない。勤務シフトは不規則であり、常に人の命を預かるプレッシャーがかかる。しかし、人生の大先輩である、利用者の方々の人生の締めくくりをお手伝いをさせていただくという充実感は、他の何物にも代え難いのではないだろうか◆「近頃の若い者は…」と人はよく口にする。しかし、果たして問題は彼らの側だけにあるのだろうか。時代が変われば人は変わる。高度に情報化された現代では、そのスピードは昔とは比べものにならない。ならば、教える側の我々こそが、それに合わせて変わらなければならないのではないだろうか◆歴史を遡れば、紀元前のエジプトのパピルスにも、「近頃の若い者は…」という記述があるという。新しい世代の力をどう引き出すか、これこそがこれからの福祉のあり方を占う鍵となるであろう◆「老人は夢を見、若者は幻を見る」（ヨエル書3章1節）－やる気と希望に満ちあふれた新入職員と過ごした2日間は、大きな手応えを感じることのできるものであった。

（山口 宰）

昔主イエスの蒔きたまいし、いとも小さきいのちの種（讃美歌21・412番より）これまでに何度もＹＭＣＡで愛唱された讃美歌の一節です。地に蒔かれ大樹となって豊かな果実を人々に与え続けて１２５年という節目の時を迎えます。常議員会内に実行委員会が設けられ、長井慎吾常議員が実行委員長を務められることに決定しました。準備タスクを経ていよいよカウントダウンを始めます。

～１２５周年準備タスクのようす～

神戸ＹＭＣＡは、１８８６年（明治19年）５月８日に発会式をあげて、来る２０１１年に創立１２５周年を迎えます。この年はゴール２０１１の完結年度でもあり、神戸ＹＭＣＡにとっては大きな節目の年になります。私たちの活動の原点を振り返り、時代の変化に対応して変えるべきもの、変えてはならないものを見極め、神戸の地におけるＹＭＣＡ運動の発展を共に考える年となることを願います。十分な準備を行うため、２００６年から常議員会に１２５周年準備タスクを設置し活動を続けてまいりました。タスクチームの使命は、テーマ（提言）の設定、ロゴマークの創作、歴史編纂、記念事業、記念礼拝などを具体化することです。２００７年度から、基本タスクと歴史編纂タスクの２チームに分かれ活動を本格化しました。私たちの活動の原点は、平和、愛、いのちの大切さを伝え続け、それらを守り育てる人材の育成にあると考え今一度原点を振り返り未来を共に考える願いをテーマに集約しました。そして、人々が手をつなぎ、海と山とポートタワーで表現された神戸から１２５年を越えて未来に羽ばたこうとする姿をロゴマークに表現しました。また、主に戦後に焦点を当て、１００年史で十分調べきれなかった事象について、当時を知る人たちを迎えて、話を聞き、歴史編纂に必要な資料作りをこつこつと進めています。１２５周年事業は結果ではなく、過程を重視するべきであり、積み上がっていくような諸準備にＹＭＣＡに連なる人々を巻き込んでいくことが大切であると考えています。２００９年度には、実行委員会を設置して参画者を増強し、コンサートやモニュメントの製作、シンポジュームなどの記念事業案の具体化に取り組みます。テーマ、ロゴマークを基軸に様々な機会で１２５周年を広報してまいります。有意義な事業となるようご理解とご賛同をお願い申し上げます。（長井）

神戸ＹＭＣＡ
125周年記念
ロゴマーク

神戸ＹＭＣＡウエルネス研修会

２００９年４月１日

熱く語りかけて下さった　大林氏

４月１日に、新年度開始に相応しくウエルネス研修会を実施しました。幼少年活動に携わるスタッフ40名が一堂に会し、３名の講師をお招きして学びと気づきの時を共にしました。柳敏晴氏（元神戸ＹＭＣＡ主任主事、名桜大学教授）からは「ＹＭＣＡ体育活動の起こり」と題して、ＹＭＣＡが何を行ってきたか、先人は何を願って体育活動を行ったかを学びました。曽和光代氏（親和女子大学名誉教授）には、子どもの心と身体の発育・発達について語っていただきました。大林冨雄氏（元神戸ＹＭＣＡ主任主事）は、子どもに関わる視点をテーマに、氏のＹＭＣＡに対する願いを届けて下さいました。講師の方々の、神戸ＹＭＣＡが子どもたちを育てていくことに対する強い願いと情熱を感じました。経験と情熱に裏付けされたお話に受講生は、研修で得た糧を、光り輝きながら生きていく〝子どもたち〟に返していくこと、子どもたちの成長を全力で支えていくことを、心から誓っていたようです。今回の研修会は、〝子どもたちの『いのち』が光輝く〟という使命を私たちが担っていくための大きな柱になったと感じています。〝いま〟を全力で生きている子どもたちの〝生きる力〟を共に力を合わせて育もうと、スタッフ一同強く感じた一日でした。ご協力いただいたみなさまに心より感謝申し上げます。

西宮ブランチ　小寺隆志

賀川豊彦献身１００年記念コラム①
～より小さきもののために～

皆さんは賀川豊彦という人を知っていますか？「日本が生んだ世界のカガワ」といわれ、日本よりも世界で知られています。今年は、賀川豊彦が神戸の地で「小さくされた人々」のために身を捧げる活動を始めてから１００年という、記念の年です。そこで、彼の活動や思想にスポットを当て、困難な時代にある我々に必要なことを見出してみたいと思います。

賀川は１８８８年、神戸で生を受けました。結核に苦しみ、命さえ危ぶまれながらも死線を超えた彼は１９０９年12月24日、賀川21歳のクリスマスイブに、自らの「いのち」を劣悪な環境で生きることを強いられた「より弱く小さくされた人々」のために捧げる事を決意し、彼らが生活する地域に入っていきます。

（次号へ続く）

感謝

【寄付金】

・武田　寿子
・清水　泰人
・江原　伯陽
・藤井　久子
・中條　道雄
・富川　和彦
・$　浩一
・兼田　幸子
・神戸ＹＭＣＡ社交ダンスクラブ

（敬称略・順不同、1月28日～3月31日）

奏鳴曲（ソナタ）No.37

総主事　水野雄二

コウノトリが飛んでいく

昨年、兵庫県の北の街・豊岡に兵庫県立コウノトリの郷公園を訪ねる機会がありました。1971年に1羽のコウノトリが息をひきとり日本の空からコウノトリが完全に姿を消しました。それから34年後の2005年、但馬地域の住民の努力によってコウノトリが再び空を舞うことができたのです。しかし、人工飼育された鳥を自然界に戻すには、鳥が棲むことのできる環境が必要で、川辺や田んぼで餌をつついても安全で豊かな自然が必要でした。

見学用の鳥たちは金網で仕切られたゲージの中にいましたが、空には雄大で、かつ優雅に舞うコウノトリがいて、その雄姿に胸が熱くなりました。人間が壊してしまった自然の体系ですが、鳥たちは少しは人間を許してくれたのだと感じたものでした。

ＹＭＣＡでは野外活動やキャンプをはじめ日常の様々な活動を通して、子どもたちと共に環境についての学びを深めています。キャンプを通して、私たちもまた自然の一部であり、生かされていることを感じるとき、自然への愛が芽生えるのではないでしょうか？　「沈黙の春」の著者、レイチェル・カーソンは「センス・オブ・ワンダー」（神秘さや不思議さに目を見張る感性）という本の中で、子ども時代の環境体験が人間形成に大きな役割を果たすと言っています。この夏も余島キャンプをはじめＹＭＣＡの活動によって、子どもたちが自然への豊かな感性を磨くことができたら、と願います。

昨年５月、神戸を会場に開催された「環境サミット」から１年が経ちました。そこで語られた環境保全は世界でどのように進展したでしょうか？　少なくとも、わが兵庫においては、今年も野生のコウノトリが雛を孵（かえ）し、但馬の空にコウノトリが飛んでいきます。

イースター早天礼拝報告

4月12日（日）午前7時より、神戸東遊園地にてイースター早天礼拝が晴天のもと行われました。今回は、日本キリスト教団鈴蘭台教会　大仁田拓朗牧師に「3」という説教題で、「イエスが十字架にかけられ、そして復活された3日間を通して、人が苦しんでいる時に常に神は共にいてくださることに気付かせてくれた。また、人を評価したり、裁いたりするのではなく、人が苦しんでいる時には寄り添い、そばにいる、共に生きることが大切である」と心に響くメッセージをいただきました。礼拝後は、これも恒例のいもがゆとイースターエッグで親睦会が行われました。134名の出席があり、席上献金がＹＷＣＡ相互援助募金・ＹＭＣＡ国際協力募金に捧げられました。

★岡山ＹＭＣＡへ出向中の大塚雅人さんより便りが届きましたのでご紹介します★

みなさん、お久しぶりです。岡山ＹＭＣＡの大塚です。私が岡山ＹＭＣＡに出向して、はや2年が経ちました。岡山ＹＭＣＡで経験したことや学んだことが数多くあります。これまで、神戸ＹＭＣＡのみなさんにお伝えする機会がなかなか見つからなかったのですが、この場で近況を報告させていただきたいと思います。

私は今、サッカー、幼児教室、体操教室、バスケットボール、フィットネスクラス（神戸Ｙでいうチャレンジドクラス）、日常野外活動・キャンプ、そしてリーダー会を担当しています。幅広く担当させてもらうことで、非常にたくさんの経験を得ています。中でも、特にキャンプが、非常に多くの学びや気づきを与えてくれたと実感しています。理由は担当するキャンプ数です。年間で概ね15回（夏休みだけで8～10回）。「そんなに行けるの？」と聞き返されることが殆どです。もちろん準備は大変です。空いている日程や時間を探しながらミーティングを行い、キャンプを実施します。キャンプが終わった翌日に次のキャンプの直前ミーティング。この繰り返しです。しかし、ただ繰り返しているのではありません。キャンプの度に新しいキャンパーが参加し、毎回異なった出来事が起こります。その度に新たな学びや気づきがあり、自分のものになっていきます。そして、その学びを活かしていけるよういつも心掛けながら活動しています。

岡山ＹＭＣＡは神戸ＹＭＣＡに比べると規模は小さいのですが、ＹＭＣＡとメンバーの距離が近く、関わり方が「深い」というのが最初の印象でした。かつての幼児教室のメンバーが小・中学生になっても継続してクラスに参加していたり、日常クラスのメンバーがキャンプに参加してくれるなど、メンバー一人がクラス1つではなく、2つ3つ、そしてキャンプも…という具合に、メンバーもその家族もたくさんのプログラムに参加し、ＹＭＣＡとしっかりつながっています。日頃から、相手の顔や気持ちが見える距離で接していることで、このようなつながりが生まれ、それが岡山ＹＭＣＡらしさだと思っています。岡山ＹＭＣＡでの3年目もメンバー一人ひとりとしっかり向き合い、つながっていきたいと思います。

岡山ＹＭＣＡ　大塚　雅人

2009年夏　ホストファミリー 募集

神戸ＹＭＣＡでは、国際交流に関心があって、来日する方々を家族として受け入れてくださるホストファミリーを広く募集しています。今夏も、日本語・日本文化研修、指導者育成、交流のために以下のグループが来日します。担当：永井（国際奉仕センター）までご連絡ください！

①7／4　～7／31　アメリカ・台湾の高校生～成人「日本語語学プログラム
②7／20（月・祝）～7／27　アメリカの中高生「ユースエクスチェンジプログラム
③8／2（日）・3（月）　アメリカの中学生「親善バスケットボールプログラム」

シリーズ こくさいのまど ⑦

今年度も引き続きこのシリーズで神戸ＹＭＣＡの様々な国際活動を紹介していきます。神戸ＹＭＣＡは様々な国・地域との繋がりの中で活動しています。今回はその中の一つを紹介します。

神戸ＹＭＣＡカレッジ〝ランゲージセンター〟では、アメリカ各地のＹＭＣＡや関係の深い団体との連携で「インターンシップ（就業体験）・ボランティア」プログラムを実施しています。

２００８年度は、村上雄希さん（余島リーダーＯＢ）がティラムクＹＭＣＡで約1ヵ月半、寺坂竜馬さんと柳瀬麻美子さん（神戸ＹＭＣＡ学院専門学校1年生）がシアトルＹＭＣＡ、山内知弥さん（同）がＪＣＣＣＮＣ*1で各々約1ヶ月間活動しました。

ホームステイしながらインターンシップ・ボランティア活動を行い、チャイルドケアやフロント業務などＹＭＣＡに来館する方々と実際に触れ合うことで、自分たちが世界のＹＭＣＡと繋がっていることを実感出来たようです。また、近隣の小学校などを訪問する機会も与えられ、笑顔で迎えてくれる子どもたちと大いに交流することも出来ました。

さらにＪＣＣＣＮＣは昨夏、日本語夏期集中コースにメンバーが来日した経緯もあり、山内さんは資料を持参し神戸の魅力をプレゼンテーションしました。その甲斐あってか今夏も、シアトルＹＭＣＡ・ＪＣＣＣＮＣから多くのメンバーが神戸ＹＭＣＡを訪問する予定です。

また多くの方々が、これらのプログラムに参加していただければと思います。

*1 Japanese Cultural and Community Center of Northern California ＝ カリフォルニア州にある日本文化交流センター

ウエルネスセンター三宮	×078（241）720
ＹＭＣＡホームヘルパーの事務所	×078（241）723
ランゲージセンター	×078（241）720
専門学校	×078（241）720
西宮ＹＭＣＡ	×0798（35）598
三田センター	×079（559）007
余島野外活動センター	×0879（62）224
ウエルネスセンター学園都市	×078（793）740

KOBE YMCA GOAL 2011 Information

西神戸ＹＭＣＡ	×078（793）740
西神南センター	×078（993）156
須磨ＹＭＣＡ	×078（734）018
ＹＭＣＡ保育園	×078（794）390
西神戸ＹＭＣＡ保育園	×078（792）101
西宮ＹＭＣＡ保育園	×0798（35）599
ＹＭＣＡちとせ幼稚園	×078（732）354
西神戸ＹＭＣＡ幼稚園	×078（997）770

第26回 タイワークキャンプ報告
国際協力募金プロジェクト

3月13日から26日の14日間で第26回タイワークキャンプが実施されました。

宿泊研修を含む合計3回の事前研修を実施したものの、海外が初めてというキャンパーもおり、コミュニケーションや生活など不安と期待を持ちながらスタートしました。

今回のキャンプは、タイ北部チェンマイから70キロ南、ランプーン県メーター郡ターパサック村にホームステイ、小中学校の環境学習センター整備が目的でした。

朝8：30に学校に集合、昼食を挟んで夕方4：00まで、床のタイル貼り、セメント作り、壁のペンキ塗り、そして環境教育用の大きなボードを国毎に作成しました。湿度は低いものの35度を超える暑さの中ではなかなかハードでした。またシアトル、タイのキャンパーとの作業の進め方や休憩の取り方、出来上がりへのこだわりなどの違いに、とまどいやイライラもありました。

ホームステイ先では、概ね水のシャワー、トイレもバケツの水で流す。食事はタイ独特のスパイシーなものが中心でしたが、中には蟻の卵やハチの幼虫、セミやヘビなども。夜は蚊や蟻に注意しながら睡眠。学校まで通う道中、たくさんの方が笑顔で挨拶してくれました。

慣れない環境に、コミュニケーションも上手くとれず、作業が思うように進まない、自分にできないことだらけ。人に当たったり、落ち込んだり…、涙も見えましたが、懸命に人と交わり、関わりが深まるなか、出会いの尊さを感じることができました。

「私たちは、どのような状況におかれている人に対しても皆、お互いをリスペクトし、いろんなことをシェアしていかなければならない。それがＹＭＣＡであり、私たちはみんなＹＭＣＡだから。」村でも貧しい母子家庭のお宅にお邪魔した時に、昨年神戸ＹＭＣＡに来たヨウさんが言った、このキャンプで最も印象深かった言葉です。

『キャンプは平和を創る。』神戸ＹＭＣＡで諸先輩方から教えて頂いた言葉を、まさに実感し再認識しました。

貴重な体験をお支え下さったチェンマイ、神戸のワイズメンズクラブ、ターパサック村の方々、タイとシアトルのキャンパー、チェンマイとサオヒンのスタッフほか関わってくださったすべての皆さんに心より感謝申し上げます。

報告者：Ｅ坂　ま

PHOTO TOPICS

専門学校入学式
（4／6）

タイユース来日
神戸ワイズメンズクラブの基金を受けて来日しました。
（3／26～4／4）

余島　少年少女Ｂ・ロータリーキャンプ
（3／29～4／2）
新しいプログラム「ツリークライミング」